

素顔 ニッポン製造業に賭ける経営者

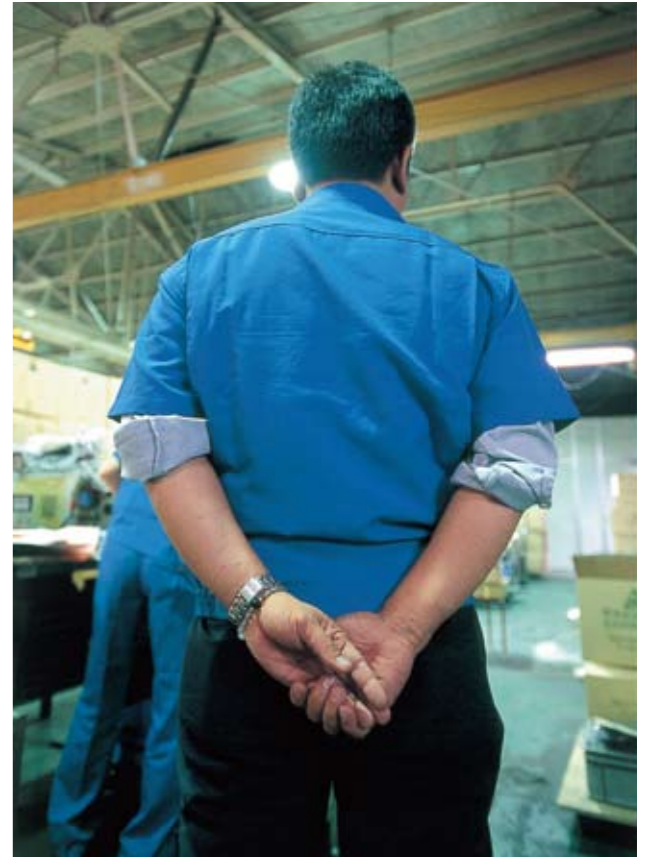
ギターを抱いたモノづくり屋

株式会社 みづほ合成工業所 代表取締役社長

後藤 敏公

株式会社みづほ合成工業所は、粉末焼結積層造形品の製作や各種樹脂の射出・圧縮成形の量産を行うプラスチック成形メーカーである。

みづほを率いる後藤敏公代表取締役社長の心に残る3つのエピソードとは――。



ギターの音色はすべてをさらけ出す

後藤は本来、左利きである。箸と歯ブラシを持つのはいつも左手だ。それと自転車。左利きは右の車道側で自転車を降り降りするから危なっかしい。

しかし、それ以外はすべて右である。文字を書くのも、アペレージ160〜170のボーリングをするときもそうだ。小学校のころ通っていた習字塾で右に直されたのがきっかけである。

まあそれでも、子ども時代、筆やハサミは両手使っていたからけっこう便利だった。とくに8歳のとき、ブランコから飛び降りて右腕

を複雑骨折した際には重宝したものだ。しかし、あれは痛かった。いまでも右ひじの横に手術の傷痕が残っている。

こうしてギターを弾くのも右だ。エリック・クラプトン、「ルパン三世」、「太陽にほえろ!」、GLAY、カーペンターズ――後藤はつぎからつぎへと自由自在に、じつにたのしげにメロディーを奏でている。

「ギターを弾くとね、人間性が全部出ちゃうんですよ。弾いている人間の性格が音色になってあらわれるんですね。うまい、ヘタ、頭の足りない部分、それを補う部分、それらすべてをひと前ですらけ出しちゃうわけですからね。コワイといえばコワイですよ」

ギターに興味を持ったのは、テレビで「サインはV」を見てからのことだ。女子バレーボールを扱ったドラマとギターにどんな関係があるんだと言われそうだが、范文雀演じる孤高の混血選手ジュン・サンダーが「真夜中のギター」を弾き語りする姿が小学生の後藤に鮮烈な印象を残したのだ。とにかくカッコよかった。しかし、念願かなって後藤がギターを手にしたのは中学生になってからだ。それは、父の最後のプレゼントでもあった。

父が嫌いだっただ

後藤の父・百合男さんは40歳で亡くなった。肝硬変だった。当時、後藤は14歳。後藤は父の死が悲しくなかった。

「家族をかえりみないで、好き勝手なことばかりしてた親父でしたからね。葬式で、まわりが悲しんでいるのが不思議だった。まあ、それでもふたりの妹たちにとっては、やさしい父親だったかもしれない。あと、親父が生きていることで得するひとたちしてみれば残念だったろうね。しかし、私にしてみれば、得なことなんてない。だから悲しくも、残念でもなかった」

後藤は、そんな父と父の兄・秀吉さんが創業した会社に勤めるつもりなどさらさらなかった。

「小さくても一國一城の主がいちばんという考えのひとでしたからね（3年前に他界）」

昭和57年、後藤は22歳でみづほ合成工業所に入社する。3年で辞めるつもりだった。

3つの物語

後藤には、いまの自分を支える3つの印象的なエピソードがある。

1つめは、入社して3年目のこと。当時、金型屋の地位には絶対的なものがあった。発注者はこちらが発注しているのにもかかわらず、製品のやりとりには出向いて行かねばならず、仕様変更がある場合には頭を下げてお願いした。金型屋の技術力、専門職意識からのプライドがそうさせていたわけだ。

お気に入りの喫茶店で、お気に入りの「マーチンHD-35」を抱える。後藤の奏でるBGMで、淹れたてのコーヒーが味わい深いものとなる



文＝上野歩(うえの・あゆむ)
作家、専修大学講師。「恋人といっしょになるでしょう」で小説すばる新人賞を受賞。著書に「チョコレートグレイ」「朝陽のようにそっと」(以上、集英社)、「愛は午後」(文芸社)など。
<http://www.bungeisha.com/reasai/>で、恋愛小説「光の河」を連載中。
公式ホームページ(上野亭かきあげ井)
<http://www1.odn.ne.jp/ayumu/>



CAD技術者と。従業員の意見に耳を傾けることも、後藤の日課だ。



女性従業員との一コマ。このようなコミュニケーションもこまめにとっている。

後藤もずいぶんたたかれた。「こんな仕様書じゃわからん。金型を持って帰れ」と言われ、泣いてすがったこともある。

そんななかで、すこぶる腕のいい、しかも安く、早く仕上げてくれる金型屋を知った。どこがどう気に入らされたのか、先方は後藤によくしてくれた。後藤だからと多少の無理も聞いてくれるようになり、社内でもなにかあったらあの金型屋にと自分が頼りにされるようになった。そうなれば得意になるのが人間だ。少しばかり天狗になった。

ある日、治雄さんの自動車屋を後藤は業務時間中に訪ねていた。「おまえ、こんなところに来てていいの？」と治雄さん。

「おれが頼まないで動いてくれないひとがいてね。そのひとに全部まか

もしろくなくて、紅白歌合戦の途中で家を出た。

こんなときにも、つい足が向いてしまうのは工場である。だが、24時間稼働しているはずのロボットは止まっていた。後藤はさっそく再稼働するが、うまくいかない。微調整をくり返し、やっと動き出したとき、後藤の耳にひくく除夜の鐘の音が響いた。後藤はなんだかおかしくなって、ひとり声を上げて笑っていた。

さて、3つめの物語である。それまで技術畑を歩んできた後藤が営業の責任者になった。部下たちもそんな後藤に簡単についてきてくれるものではない。後藤はなんとかして自分を認めさせる必要があった。

そんなとき、後藤は大手の取引先から新製品の受注を得る。うれしかった。ところが納期が短く、名古屋市内には引き受けてくれる金型屋がない。

後藤は当時懇意にしていた岐阜の業者を訪れる。しかし、そこでも受けられないと言われた。呆然と窓外にちらつく雪を見つめていると、韓国ルートに発注してみてもとすめられた。「不備があった場合、最終的な調整はうちでやるから」とも請け負ってくれた。「ただし、こうした場合は、うちも同行するんだけど、今回はあんたひとりで韓国に行ってもらわなきゃならないよ」

せてある」

後藤がそう言うと、「そのひとは、おまえがここでふらふらしてるあいだも、おまえのために働いてくれてるんだろ」

それでも、後藤には治雄さんの言葉が身にしみなかった。

数日後、その金型屋とのあいだに仕様書の行き違いが発生した。後藤は相手にまかせきりで、説明不足だったのだ。後藤は自身の慢心を思い知らされた。

専門学校時代に知り合った泰子さんと足かけ8年の交際をへて後藤は結婚した。2つめの物語は、結婚2年めの大晦日のことである。

ロボットを導入したものの、トラブルつづきだった。それが気になっていたせいも、ささいなことでも泰子さんと口げんかになった。後藤は

後藤はひとりで旅立った。そして、新しい仕事と新しい発注ルートを得た。以来、韓国には50回以上渡っている。

激変の人生

後藤は41歳と6ヶ月で代表取締役社長に就任した。その年の業績は過去2番めの赤字だった。

「2005年、あなたは激変の人生を送ることになるでしょう」社長に就任する2年まえ、なにげなくみてもらった町の占い師にそう言われた。そして、その通り44歳になったいまも人生の激変ぶりは続行中である。

今年6月、愛知県犬山市の工業団地に750坪の土地を取得。新工場を12月にオープンする。「設備基盤を整えるのに2年はかかるでしょうね」

後藤のモノづくりへのこだわりは熱い。いつか「みづほでなければ」というカスタムオーダーの製品をつくるのが夢だ。

「なんやかやで、私はまだ真の社長とは言えませんよ。そうした製品がつくれるようになったとき、自分をみづほの社長と言いたいと思います」

OTにはならなかったが、いまも後藤はひととかわかることが好きだ。設計士と意見交換し、ちょっとしたアイデアを提供すること、生産した製品でエンドユーザーに喜んでもらえること、そこではまぎれもなくひととのふれあいを実感できる。



後藤が最近うれしかったのは、小学2年生の長男・大征君がピアノをはじめたことだった。いつかは自分のギターとセッションできればと思ったからだ。

そうして近ごろ、後藤は、父が気まぐれのようにくれたギターのことをふと考える。そんなとき、後藤のなかに自然と浮かんでくるのは、感謝、という言葉だ。

「そう、感謝、感謝です。いろいろ言われた金型屋さん、お取引先様、外堀埋めて叱り飛ばされた成田の伯父さん、みづほのいろはを教えてくれた二代目社長の伯父さん、先代の社長、なにより、なにより最後は私の父でしょうか、やはり」



後藤が参加している異業種交流会（G-Interactive）の面々。この日の集会は、寺の住職を呼び説法を聞いた。

COMPANY PRO-file

株式会社 みづほ合成工業所
 所在地：愛知県名古屋市中川区乗越町 2-41
 TEL：052-361-8366 FAX：052-361-8360
 担当：代表取締役社長 後藤敏公
 事業内容：プラスチック成形・加工、及び電気部品の製造・組立
 FRP 試作モデル作成、製品設計
 エミダス会社・工場詳細情報：
<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?47364>
 ※「エミダス工場検索」のキーワード検索「みづほ合成」で検索できます。